

8 Projects

【「エコ」活動ファイル2006】

マークの凡例
地域開発
環境教育

シルクロード緑化プロジェクト

拡大する砂漠化の緩和と地域の方々による持続的な発展をめざし、継続的な植林活動を展開します。

果てしない乾燥地帯が広がる中国シルクロード上の黄土高原では、砂漠化により着実に新たな土地が侵食されています。地域の方々によると、以前は陝西省西安市付近から新疆ウイグル自治区まで緑が広がっていたといわれています。しかし、時間が経つにつれて、生活のために人が木を伐採したことが砂漠化の拡大につながったといわれ、コスモ石油エコカード基金ではNPO2050とともに、2002年度から植林を続けています。

2006年度の活動

沙棘(サジ)を主体とした植林20,000本を引き続き行ないました。2007年度は中国国内の植林地の視察や沙棘の実に加工工場との商談も行ない、沙棘植林と貧困軽減の相乗効果の実現を図る計画を練りました。甘肅省や新疆ウイグル自治区で沙棘植林の推進とネットワーク作りも強化し、砂漠化防止を目的として活動を進めました。

今後の活動

2006年度に開始した甘肅省で2007年度は40haに沙棘を植林します。12万本の沙棘植林を通し、黄土高原の砂漠化防止などを実現していきます。更に現地地域の方々に植林とその後の管理一切を付託し、環境意識や収入の向上、貧困解消に寄与します。

中国 秦嶺山脈 森林・生態系回復プロジェクト

森を分断する林道跡地に植林し、絶滅危惧種キンシコウなど、野生動物の生息環境改善に取り組んでいます。

秦嶺山脈は、パンダやキンシコウ(絶滅危惧種)などの希少動物の宝庫として世界的にも有名です。しかし、20世紀後半の森林伐採により、野生動物の住む森は荒れ、種の絶滅が危ぶまれるようになりました。このプロジェクトでは、豊かな森林と生態系の回復をめざし、環境を最も崩しているといわれる林道跡地への植林(全長194kmのうち72.5km)と、動物の観測に取り組んでいます。

2006年度の活動

2年目の2006年度は、秦嶺山脈の西側の斜面にある林道跡地18kmに、9,000本の植林をし、この2年間で予定地の約半分の植林を終了しました。植林には西北大学の学生280名が参加し、地元の方や村民も協力してくれました。パートナーの西北大学では中国国内で講演会を開催し、また、ホームページを開設するなど、活動の紹介やPRも積極的に行ないました。

今後の活動

2007年度は16kmの林道跡地に合計12,000本を植林する予定です。植林と並行して、キンシコウやパンダ、また他の野生動物の植林への適応状況や、生存能力などの研究も続けていきます。

循環型農業支援プロジェクト

キャッサバ植栽やエリ蚕養蚕などを通じた持続的な地域社会の構築や地場産業の育成をめざします。

フィリピン南西部のパラワン島は緑豊かな島であるとともに、同国の中でも最も開発が遅れた地域といわれています。その地域の農民や漁民の方々の多くは、生活の糧を得るため、森林伐採や焼畑農業に従事し、生活を営んでいます。そのような状況のもと、NPO2050とともに、パラワン島の首府エルトプリンセサで活動するタバライ財団と、キャッサバ植栽やエリ蚕養蚕を通じた環境保全活動を展開しています。

2006年度の活動

活動拠点のエルトプリンセサとポートバートンで、引き続きエリ蚕養蚕等の技術指導に取り組みました。トレーナーの中には、自宅での飼育やキャッサバ植栽をする方々も現れ、着実に技術の向上がみられました。2005年度に活動を始めたカヤサン村では、リーダー不在となり一旦活動を断念しましたが、一方で現地のニーズを受けてサンカルロスやナラで技術指導を始めました。

今後の活動

今までの技術指導と地機(じばた)の提供により、技術レベルが格段に高くなってきています。2007年度は、輸出品の生産を目的とした品質管理とマーケティングが主な課題です。新規サイトのサンカルロス・ナラ・サバンではキャッサバ植栽やエリ蚕養蚕を中心に初歩的な指導を継続的に行ないます。

植林のための苗木供給基地プロジェクト(新「種まき塾」)

“ココロと大地にタネを蒔く”をスローガンに、自然林の回復活動を通し、環境教育に取り組んでいます。

物事の始まりであり、同時に「循環」の象徴といえる「タネ」に注目し、自然循環する森林づくりと環境教育に取り組んでいます。山からタネや実生を採取し、これを苗畑で育て、地域で植林する方々に提供します。また苗木育成や植林活動を通して、五感で“自然”を感じ、人と自然が楽しく共生できる方法を考える環境教育プログラムを実施しています。

2年目の今年の目標は、「苗畑での育苗本数50,000本」「苗木提供数 5,000本(将来目標年間1万本)」です。また、引き続き、体験プログラム(6~10月)や、エコツアーも開催する予定です。ご案内は順次ホームページにアップしていきますので、是非ご覧ください。

このまま植えられる「紙ネット」(厚紙でつくられた苗木ポット)

2006年度の活動

2006年春にスタートしたこのプロジェクトでは、まず、拠点となる苗畑1haの造成から活動を開始。アカエゾマツ13,200本、ハルニエ9,600本など、計33,850本の苗木の育成に着手し、5,000本を植林用に供給しました。また、どなたでも参加可能な体験プログラムをスタート。6月末には「エコ」カード会員限定のエコツアーも行ないました。

今後の活動

2年目の今年の目標は、「苗畑での育苗本数50,000本」「苗木提供数 5,000本(将来目標年間1万本)」です。また、引き続き、体験プログラム(6~10月)や、エコツアーも開催する予定です。ご案内は順次ホームページにアップしていきますので、是非ご覧ください。

学校の環境教育支援プロジェクト

日本各地のNPOとともに、教育の現場、「学校」での環境教育を支援しています。

教育最前線の「学校」の環境教育のお手伝いをする、それがこのプロジェクトの目的です。自然体験プログラムなどのノウハウを持つ日本各地のNPOと、ノウハウや機会を探している学校とのマッチングを行ない、互いの長所を生かして、より効果的な環境教育プログラムができるよう取り組んでいます。また、ウェブを活用した環境学習サイト「EE kids」を通じ、環境教育のコミュニケーションプラットフォーム作りも行っています。

2006年度の活動

2006年度は全国7地区、北海道、千葉県、東京都、神奈川県、三重県、広島県、鹿児島県の小学校10校を支援。千葉県と三重県ではエネルギー教育も行ないました。WEBサイト「EE kids」も軌道に乗り、児童、教師、NPO、地域の方々でコミュニケーションをはかり、体験学習で実践したことを発展させ、疑問点や意見交換を活発に行なうことができました。

今後の活動

2007年度は北海道、宮城県、埼玉県、東京都、岐阜県、広島県、高知県、熊本県、鹿児島県の9ヶ所の小・中学校を支援。新たに、先生方へのノウハウ伝授ツール「ティーチャーズ・ガイド」の制作や、各地の取り組みを発表するフォーラムの開催も予定しています。

環境学校支援プロジェクト(新「野口健 環境学校」)

環境に対し自ら行動できる「環境メッセージ」の育成を支援しています。

「自分から環境に対して行動メッセージを発信できる人“環境メッセージ”を育てていきたい」。そんな思いから野口健さん率いるNPOとともに「環境学校」を開催しています。環境学校では自然の美しさや楽しさを体験し、環境保全のありかたや、背景にある社会問題も学びます。また、課題などについて自分の意見を発表する機会を通し、「環境メッセージ」の育成に取り組んでいます。

2006年度の活動

環境学校を富士山・佐渡・東京・小笠原の全国4ヶ所で行ないました。自然に親しみ体感しながら、参加者自らが感じ、考え、社会に向けてメッセージを発信します。富士山では新たな試みとして、家族を対象とした環境学校を開催し、大人と子どもと一緒に環境に触れる機会ができました。

開催地	日程	参加者数	メインテーマ
富士山	7月24日~7月27日	23名	富士山の不法投棄の現状について
佐渡	8月14日~8月16日	12名	トキ放鳥の佐渡の取り組みについて
富士山(家族対象)	9月16日~18日	24名	富士山の不法投棄の現状について 家族が富士山でできること、家庭で出来ること
東京	12月16日~17日	46名	企業の環境活動(エコプロダクツ展等) 環境メッセージの輪
小笠原	3月21日~26日	24名	エコツアーと環境は守れるのか? 生物多様性の保護

今後の活動

2007年度は富士山、佐渡、小笠原の3ヶ所で児童、青年を対象に、環境学校を実施します。子どもたちが自ら行なう環境活動を促進し、その活動を発表の場として「ミーティング」も開催します。毎年12月には環境学校卒業生が集まり、宿題の発表の場としています。

南太平洋諸国支援プロジェクト

気候変動の影響といわれる海面上昇により、被害を受けている地域や人々を支援しています。

南太平洋のキリバスやツバルは、海面上昇の影響を、真っ先に受けているといわれる島嶼国です。高いところでも海拔高が数mに満たない南国では、海水で道路が冠水したり、井戸に海水が侵入したりして、そこに住む方々の生活に支障が出はじめています。場所によっては、海岸浸食が深刻なところもあるなど、地球温暖化による海面上昇の影響が目前に迫っています。

2006年度の活動

マングロープに関する試験活動を通じて、関係機関の担当者への技術移転を行ないました。比較的波の影響を受けやすい立地条件でも、植栽したマングロープが流されないような有効な植栽方法を模索し続けています。また、地域の子どもたちや青年たちも、積極的にマングロープの植林活動に参加しはじめ、身近な自然のおもしろさや大切さを学ぶ機会が少しずつ高まりつつあります。

今後の活動

マングロープの植林を2007年度も引き続き行ない、キリバス住民へのマングロープ植林技術の移転ばかりではなく、普及啓発活動を通じての環境意識の醸成にも取り組めます。海岸浸食や沿岸域での気象災害(高波等)による被害を可能な限り緩和し、住民の生活の保障に多少でも貢献できたらと考えています。

2006年度の活動

給水車を設置した前年度の緊急的支援に加え、海岸浸食の抑制効果が期待できるとされるマングロープの植林に向けた準備をはじめました。現地にマングロープ専門家が出向き、海岸線の浸食状況、マングロープ植林に向けたの採種可能な樹種の有無、採種場所や植栽可能な場所の選定などの調査を実施しました。

今後の活動

2007年度は小さな面積ですがマングロープ植林活動を開始します。夏季に植林事業の記念式典を予定しております。首都フナフチでは、会員の皆さまから支援頂いた給水車が連日休まず稼働していますが、島内にはひび割れなどで水を補給できない水タンクが多数あり、それらの補修も実施します。

パプアニューギニア Papua New Guinea

熱帯雨林保全プロジェクト

熱帯雨林の保全と人々の生活向上をめざし、循環型有機農業の普及を支援しています。

パプアニューギニアやソロモン諸島は、熱帯雨林の広がる自然豊かな地域ですが、人口増加や、急激な近代化に伴い、食糧増産や現金収入の必要性が高まっています。そのため、焼畑の拡大や商業伐採により、自然の再生スピードを越える熱帯雨林の破壊が進んでいます。熱帯雨林の保全と、貧困に起因する諸問題の根本的な原因解消を目的とし、自然環境と折り合った持続可能な循環型の有機農業普及活動を行なっています。

2006年度の活動

モデル研修農場「エコテックセンター」で、定地型の有機農業研修を通じ、人材育成と農業技術の普及を行ないました。長い視野で、森林伐採防止や環境保全に繋がる動きを信じ、活動を続けています。また、新たな活動として環境に関する啓発を目的に、地域の中心部であるココボで「ココボ自然環境公園」構想を開始しました。州政府とのマスタープランも決定し、建設に着手しました。

今後の活動

モデル研修農場「エコテックセンター」では、定地型有機農業をはじめ、自家製チョコレートの製造やスタッフの能力開発研修、市場開拓・マーケティング調査を行ない、自立運営をめざします。また、建設が遅れていた環境啓発のための「ココボ自然環境公園」が2007年度開所予定となります。

キリバス共和国 Republic of Kiribati

ツバル Tuvalu

ソロモン諸島 Solomon Islands

2006年度の活動

「バーマカルチャーセンター」では、宿舎や長期研修プログラムが完成し、遠方からの研修生受け入れ体制も整いました。研修生は2期生20名が卒業し、3期生30名を迎えました。また、新たな試みとして、「ソロモンオーガニックセンター」を開所。卒業生や農民の自活をサポートするため、収穫した農産物を買取り、販売する流通システムの確立をめざしています。

今後の活動

「バーマカルチャーセンター」では人材育成に注力し、現地インストラクターを日本に招聘し、技術を伝授し、スキルアップを図ります。また、2006年度に開所した「ソロモンオーガニックセンター」を本格稼働させるように、卒業生出身の村落を対象に農作物流通をめざしたシステム構築を行ないます。

